

カトリック六甲教会 教会報

2014

8

No.512

初聖体・祝福式

6月22日(日)、6人のこども達の初聖体、2人のこども達の祝福が行われたことは、教会報7月号にてご報告の通りですが、こども達から感想が届きましたので、その一部を紹介させていただきます。その他のこども達の感想もお読みにになりたい方は、Jesus Kids 181号(7月12日発行)をご覧ください。

(広報部)



今年アルフレド神父さまに替わられて初めての初聖体・祝福式でした。

前日のリハーサルで神父さまから明日は試験をするよ。落第したら初聖体・祝福式は来年だからねって言われて、正直言って子供たちよりもリーダーの私が緊張してしまいました。でも式の当日は案ずるより生むが易しでした。子どもたちは、最初は緊張の面持ちでしたが、神父さまのお話がすすむにつれとても楽しそうに、毎週ご聖体をいただく大切さ、イエス様と親友になるにはどうすれば良いのかのお話に聞き入っていました。

式が終わり、子どもたちの嬉しそうな様子を見ていて、神様の祝福がいっぱい降り注いだその姿に私も大きな喜びと、よし！またこの1年頑張るぞという力をいただきました。子どもたちだけではなく、リーダーたちにも大きなお恵みをいただけたことを実感できた1日だったと思います。

最後になりましたが、子どもたちのお祝いのためにいろいろと準備をしてくださった保護者の皆さまや教会の皆さまに、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

以下は子どもたちと保護者の方々の感想の抜粋です。(教会学校2年生担当リーダー 吉村)

<初聖体感想>

二年間のべんきょうで頭がほぐされました。べんきょうでいみがわからんという事もありました。でも、リーダーたちがやさしく教えてくれました。だから初聖体でもアルさんのしけんも、ちょこちょこ分かりました。しけんをごうかくして、うれしかったです。

ご聖体は何も味がしませんでした。でもがっかりしないで、しっかりとこれからもご聖体をいただいでいけるように、しっかりべんきょうしていきます。(小田)

今日はドキドキしていたはつ聖体がありました。教会のミサで、大ぜいの人たちの中で、おいわいをしてもらい、心があたたかくなりました。なので、知らない人にもおいわいしてもらって、本当にうれしかったです。

神様の体を分けてもらい、いつも自分の心の中にいてくださり、安心して毎日をすごせます。これからも、もっともっと、神様とたくさん友だちになって、たすけあいやはなしをしたりしていきたいです。

(川畑)

わたしは、さいしょの入場の時 みんなにカメラでとられたので、きんちょうしていました。

わたしはそのあと ろうどくではじめてみんなの前で文章を読むので、きんちょうしていました。わたしは、文章を読むのがにがてで、いっぱいつまりかかないか心ばいだったけど、ほんばんはあまりつまずかなく、じょうずにできたと思います。

初聖体のパンをもらう時、イエスさまの体をいただくのにドキドキハラハラしました。パーティーで、たけちゃんがかんそうをいったとおり味はしなかったけれど、イエスさまの体をいただいた時の気持ちがとってもうれしかったです。

みんながわたしたちをおいおいしてくれて神さま、イエスさまもおいおいしてくれてうれしかったです。イエスさまの体をいただいたので、いつも心からかんしゃしたいと私は思っています。

一日がとってもたのしかったです。

(辻原)

<祝福感想>

今日しゅくふく式をうけて、神さまにしゅくふくしてもらえてうれしいです。

しゅくふく式のことは、ぜったいにわすれないようにしたいです。 (辻 希咲)



<初聖体保護者感想>

初聖体の前と後とでは、お祈りに対する心構えがかなり変わりました。イエス様と親友になるという言葉が心に響いたようです。毎日、家でもお祈りをするようになり、家族全員喜んでます。

(岡村・ドゥニア)

次男の初聖体にあたり、神父様、一緒に準備して下さったリーダー方や保護者の方々に感謝いたします。有難うございました。

長男の時は親の私も初めてということもあり、じっくり初聖体の喜びを味わおうといった感じではなかったような気がいたします。

今回は、長男の時とは違った感動を感じる事が出来ました。8人の子ども達の保護者の方々ともゆっくり親睦を深めながら準備が出来たことも大きなお恵みになりました。

赤ちゃんの時から、ずっと御ミサに与り、話し始めたら「ちょうだい！！」とご聖体をほしがり、教会学校にお世話になり、すっかり教会の家族の一員になっていく息子の姿に喜びを感じた式でした。

今まで、温かい目で息子を見て下さった皆様に感謝し、これからも教会の子どもとして、成長していくことを願っています。

(小田)

「ねえ、それっておいしい？」「今日は私ももらえる？」と質問され、「まだやわ～」と笑いながら返事していた頃、初聖体なんて大きなお兄ちゃんお姉ちゃんが迎える事だと遠く感じていました。まさか、親子揃って初聖体に取り組む時がこんなに早く来るとは・・・と子どもの成長を感じる一日でした。

子どもも親も日々の生活に追われ、慌ただしく暮らす中、このように一つの目標に向かって共に歩む機会を与えられたことに感謝します。ミサでたくさんの方々大きな拍手を頂き、小さい頃からの関わりのある方からお祝いの言葉をかけて頂き、またパーティーにはたくさんのお母様方のご協力を頂きと、私たち親子はこれほど大きな「愛」の中で生きているのだと再確認致しました。

無事に初聖体を迎えられたわけですが、これからも今日のように皆様に愛されながら自分らしく成長していったらと親として願うばかりです。ご尽力下さった皆様、本当にありがとうございました。

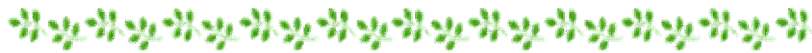
(辻原)

<祝福保護者感想>

1年かけて、大変お世話になりました。確か、9月か10月頃、学校の行事で忙しく、教会学校で聖書のお勉強で「もう、行きたくない」とほぼ1ヶ月近く休んだ時期がございました。しかし、何を思ったのか突然真面目に行くようになり、成長を感じました。

特に、親子で取り組んでからは、益々、友達との距離も縮まり、楽しく行かせていただきました。

一年間かけてした準備のためのプリントファイルがある事も知らず、内容を見て沢山の聖書のお勉強と、お友だちや周りの人についてどう対処すれば神さまの子どもとして生きていけるか家庭ではなかなか教えづらい事を教えていただいている事に感謝いたします。(辻)



ナルドの花たより

年間第14主日7月6日、教皇は、サンピエトロ広場に集まった大勢の信者とともに、公邸書斎の窓から「お告げの祈り」を行った。以下は祈りの前に述べたことばの全訳。(原文イタリア語)



親愛なる兄弟姉妹の皆さん、こんにちは。

今日、この主日の福音は、イエスの招きが記されています。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ 11・28)。このことばが述べられた時、イエスの目の前には、ガリラヤの路上で日々、出会う人々がいました。大勢の素朴な人々、貧しい人々、病者、罪人、虐げられた人々。これらの人々は、希望を与えてくれるイエスのことばを聞くために、いつもイエスの後を追い、彼の服の房に少しでも触れようとしました。イエスご自身も、飼い主のいない羊のように(マタイ 9・35-36 参照)疲れ果て、打ちひしがれた人々を探して、神の国を告げ知らせ、多くの人々のからだを心をやさそうとしていました。イエスは今も、そうしたすべての人々に「だれでもわたしのもとに来なさい」と呼びかけ、休息と安らぎを約束しています。

このイエスの招きは今も続いています。劣悪な生活環境や生活苦によって打ちひしがれた多くの兄弟姉妹を招いています。極貧国だけでなく、富裕国の片隅にも、置き去りにされ無視されるという耐え難い重荷を負い、失望している人が大勢います。困っている人を無視することは何とひどいことでしょう。キリスト者が無視するなど最悪です。社会の周縁には、貧しさだけでなく、生活への不満、挫折のために苦しんでいる人が沢山います。多くの人がいのちの危険にさらされ、故郷からの移住を余儀なくされています。さらに多くの人々が、人間を搾取し、耐え難い「くびき」を負わせる経済制度の重荷を日々、担っています。ごく少数の特権階級の人々はそくびきを担おうとはしません。イエスは、天におられる御父のこれらの子供一人ひとりに、「だれでもわたしのもとに来なさい」と招いています。一方、すべてを手にしていながら、心が空虚で神を信じていない人に対しても、イエスは「わたしのもとに来なさい」と招きます。イエスの招きはすべての人に向けられています。もともと苦しんでいる人をとりわけ招いておられます。

イエスはすべての人を休ませてあげると約束しましたが、もう一つ、命じているかのような招きも示しています。「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしのくびきを負い、わたしに学びなさい」(マタイ 11・29)。主の「くびき」とは、兄弟愛をもって他者の重荷を背負うことです。キリストの安らぎと慰めを受けたなら、今度はわたしたちが、主のように従順で謙虚な姿勢で兄弟姉妹の安らぎと慰めとならなければなりません。このように従順で謙虚な心は、わたしたちが他者のくびきを負う助けとなるだけでなく、自分自身の個人的な見解や判断や批判を他者に押し付けないようにする助けにもなります。

疲れ果て失望しているすべての人を、おとめマリアがそのマントの中に迎え入れてくださいますように。そうすれば、わたしたちは、信仰をより深め、生涯を通してあかしすることを通して、救いといやしと希望を必要としている人々のなぐさめとなることができるでしょう。(カトリック中央協議会 フランシスコの説教より)

忘れないで！

～東日本の被災地から～

福島 ころの架け橋ツアーに参加して

6月19日～21日、神戸地区社会活動員会主催の仮設住宅訪問ツアーに参加してきました。問先の仮設住宅は社活が何らかの形で支援している所で、その現状を自分たちの目で見、これからも必要な支援を継続する為でもありました。参加者は9名。

仙台空港に着くと3.42mの印が目につきました。そうです、3・11に空港に押し寄せた津波の高さです。自動車道からも津波の高さ表示が目につきます。テレビで見た光景をまざまざと思い出しました。今は雑草の生えた更地が目立っていました。



(原町ベーススタッフと)

鹿島駅でSr佐々木、原町ベーススタッフと待ち合わせ、南相馬市に併設する集会所「サロン・真ころ」を訪問しました。原町ベースは鹿島区にある集会所のお茶会を原町教会の信徒会長さん達と共にバックアップし、社活はそのお茶会のお菓子代を支援しています。サロンに集まる方たちの手作業の材料となる着物をほどくお手伝いの後、お世話をしておられるMさんからお話を伺いました。津波から間一髪で逃げ切った方でした。1号機が爆発した時には「死ぬ」と思われたそうです。

子供たちの安全を考えて北海道の親族に託し、子供たちに恥ずかしくない生き方をと、仮設のお世話役を引き受け、3地域の方たちの交流に心を砕き、明るく時には厳しく規律のある仮設運営にたずさわっておられました。原発に絡む様々な問題に翻弄される被災者の胸の内を語って下さいました。

集会所を後に宿泊先の原町ベースに到着。近くの銭湯で汗を流し、夕食のカレーライスをいただいた後グループに分かれての振り返りがありました。西千葉教会の方々と一緒に部屋いっぱい布団を敷いての雑魚寝は初めての経験でした。

2日目、寝不足のまま早朝の散歩の後、公園でのラジオ体操に参加しました。40人ほどの仮設住まいの方が参加されていました。原町教会の朝ミサと静かな祈りのひと時を頂きました。隣接する幼稚園の園舎や遊具に心安らぐものを感じましたが、やはり園児は少ないようです。

今日は相馬市馬事公苑で二本松デスクのスタッフと落ち合い、郡山市方面の川内村仮設住宅を3か所訪問します。鹿島駅にも馬事公苑にも線量計が立っていましたが、スタッフの線量計よりも20%ほど線量が低く表示されています。住民を安心させる狙いがあるのではという説明でした。もちろん住民はこの数値を信用していないそうです。

原町から郡山まで、帰還困難区域を迂回しての移動です。木々は緑深く自然豊かな森が広がっていますが、飯館村あたりは閑散とし廃屋も目立ち、所々に除染した土を入れた1t袋が高く積み上げられブルーシートがかぶせてあります。しかしすぐ後ろには森が……。

漸く郡山市内に着き、100所帯はありそうな立派な川内村仮設住宅に案内されました。ここはもともと県庁が引っ越してくる予定地だったそうで、近くには当初3000人の被災者を収容したイベント会場「ビッグパレット」があります。海外や国の要人の方々の仮設住宅視察には必ずこの立派な仮設住宅が使われるそうです。外観など山間部のプレハブ仮設とはえらい違いです。この仮設住宅には、東電から毎月一人10万の賠償金をもらっている家族と、すでに打ち切られた家族とが、通路を隔てて住んでいます。住民間でも複雑な思いがあるようで、被災者でありながらボランティアで仮設住宅内のお世話をなさっておられるSさんは、あと半年が限界と、仮設住宅内での支援の難しさを語って下さいました。大金を手にして生活や親子関係が狂いかけている家族もあるそうです。住んでいるのは80歳代の方がほとんどで、週1度、家の掃除に帰るそうですが、帰りたくても周りには店もなく生活はできないと、

先の見えない生活に困惑の様子でした。最後に全員で相馬と川内村の民謡を歌ってくださり、なつかしい故郷の生活を思い出しておられるようでした。

次に訪れた2か所の仮設住宅は戸数も少なく村全体がまとまって移動したので、親戚、縁者が多く、みなさんととても元気で、明るく、野菜作りや、集会室に集まっては男女別なく折り紙で吊るし飾を作り、集会室は華やかに飾られていました。採れたてのキウリをご馳走になり話も弾み、帰り際には力作の吊るし飾りをお土産に戴きました。人と人とのつながりの大切さをまじまじと見せつけられた思いでした。

今晚の宿は二本松市にある福島県男女共生センターです。ツインの部屋に一人ずつ。嬉しい。夕食は近くのお寿司屋さんへ。そこに2年前の「ふっこうのかけ橋」で神戸にいらしたフィリピンのお母さんたちが飛び入り参加、賑やかな晩となりました。

3日目、二本松はNHKの大河ドラマ「八重の桜」で有名になった場所です。今日も早起きして二本松城の本丸まで登り、市内をぐるりと見回し、往時を空想してみました。樹齢300年以上の松が立ち並び、木立を進むと鮮やかなアジサイが群生する素敵なお場所でした。

今日は葛尾村の方たちが住む三春町の仮設住宅3か所を訪問します。ここも村がまとまって移動しているの、ほとんどの方が親戚で、松本さんだけでした。この仮設住宅には中学生が1人いました。三春町全体で11人の子供がいて、通学には巡回バスが仮設住宅を巡回し送迎しているそうです。子供たちは避難所、仮設住宅を転々と移動し、その度に転校した為、登校拒否になった子供さんもいたようです。女性達は暇な時間にパッチワークや、クラフトテープでバッグ作りをしては知人に差し上げているということでした。

三春町は「滝桜」の名で知られる樹齢1000年を超える見事なしだれ桜があります。幹はいくつにも分かれ、枝は地面に届きそうなくらいで満開の頃には30万人の観光客が訪れるそうです。そこここにしだれ桜を見かけますが、梅、桃が一度に咲き揃うことから三春の地名が付いたそうです。

昼食には地元田村市で有機栽培野菜を作っている大河原伸さんのお店のお弁当をいただきました。農家の6代目で、先祖が大事に育ててきた土地で30年前から有機栽培を始め、安全安心な作物づくりをしていたのが原発事故で農業ができなくなりました。悔しくて辛くて涙のこぼれる日々だったけれど、土地を捨てることは自分の人生を捨てること、そんなこと絶対にできない、安全な野菜を作り安心してまた食べてもらいたいという強い意志を持って、風評被害にくじけそうになりながらも、生活を守るために「エスペリ(希望)」というお店を開き、販路開拓のためにも頑張っておられました。思いのたけを歌にしてYou-Tubeに流しておられますので是非ご覧ください。「エスペリ」を後に一路仙台空港に向かい、夜9時半ごろ無事神戸空港に戻ってまいりました。



(仮設の皆様と一緒に)

仮設住宅の皆様とお別れする時にはいつも「お元気でね。」しか言えなくて……。私たちは自分の家に帰るのに、自分たちの家に帰れない方々が見送ってくださることに申し訳ない気分を味わいます。

国は本当にこの方たちの生活再建を考えているのだろうか、利権がらみの様々な思惑に、弱い立場の被災者が弄ばれているのではないかと大きな疑問を感じます。被災された方々が、自分たちは忘れられていくのではないかと不安を少しでも和らげ繋がっていくために、社活の支援をこれから

も細く長く、必要がなくなるまで続けていこう、そして、どうか頑張っている被災者の皆さんが希望を失わずに元気でいてくださることを心から祈った旅でした。

(長瀬)

カトリック六甲教会聖歌隊とともに～

第13回祈りと音楽の集い

聖母の被昇天の祝日にマリア様の歌を集めて



8月15日(金)は聖母被昇天の祭日です。この日は10時ミサのあと引き続き「第13回祈りと音楽の集い～聖母被昇天に寄せて(聖歌隊とともに)」が開かれます。オルガン演奏、独唱、などとともに、六甲教会聖歌隊がマリア様に因んだ歌を歌ってお祝いします。

聖歌研究会を経て新生聖歌隊がスタートして3年余が過ぎました。普段はクリスマス、ご復活、結婚式、葬儀など典礼に沿って奉仕しております。これからも典礼音楽を担う音楽チームの中核として、ますます神様の意にかなった演奏を追求して行きたいと願っています。あたたかいご支援をお願いします。

当日は近隣、知人、友人、音楽愛好者の方々もお誘い合わせの上ぜひご来場下さい。(音楽チーム)

日 時: 2014年8月15日(金) 11:30a.m.
場 所: カトリック六甲教会主聖堂
プログラム: 典礼聖歌より「しあわせなカタマリア」他、カトリック聖歌集より「Ave Maria」他、ヴィクトリア/パレストリーナ/グノー アヴェ・マリア
出 演: カトリック六甲教会聖歌隊 / カンターテ・ドミノ
浅野純加・高山教子(ソプラノ)

納涼の夕べ



テーマ: 「手をつなぎ 心をつないで 夏祭り」
日 時: 8月16日(土) 17:00ミサ後～20:00
場 所: カトリック六甲教会 駐車場、イグナチオホール



中高生会: ヨーヨー・スーパーボール 教会学校: 輪投げ
灘北1・北・三田: 焼き鳥 灘北2・阪神: 花火 灘南・神戸西: 飲み物
灘西・中央: おにぎり・コロッケ・裂きイカのつかみ取り
東灘北2・芦屋: 焼きそば 東灘南: 綿菓子・かき氷



☆イベントとして、『橋岡さんご夫妻によるカントリーミュージック演奏』があります。

どうぞ、ご家族、ご近所の皆様、お誘い合わせの上、大勢の方のご参加をお待ちしております!

地区会 行事企画チーム 納涼の夕べ担当 堤

長崎祈りと巡礼の旅

来たる10月3日(金)～5日(日)2泊3日の「長崎祈りと巡礼の旅」を企画しました。カトリック六甲教会の前主任司祭松村神父が赴任された「長崎立山黙想の家」をベースに、今話題の軍艦島、黒崎地区の教会や記念館、めったに行かない伊王(いおう)島の教会などの訪問を主にしています。

私始め、世話役の皆さんは、限られた日数で参加者の皆さんにご満足いただける企画をと何度も練り直したものです。勿論、カトリック信者でない方の参加も喜んでお受けいたします。

定員は30名で現在既に20名余りのお申し込みがあり、残席が残り少なくなっています。定員になり次第締め切らせていただきます。お早目にお申込みください(申し込みは教会事務所まで)。

また、当地のガイドは黒崎地区のボランティアの方をお願いしています。

先日、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界遺産として推薦登録されたニュースがありました。タイミング的にも丁度良いかと思います。(蛭田)



募 集 要 項

期 間：10月3日(金)～10月5日(日) 2泊3日

宿泊先：長崎黙想の家 長崎市立山5-8-30; TEL. 095-821-4577 (9:00～18:00)

参加費：55,000円

☆参加募集定員：30名

☆申込み締切日：9月7日(日曜日)

参加ご希望の方は、申込み用紙に必要事項をご記入の上、教会受付までお申込み下さい。

但し定員になりしだい締め切らせて頂きます。♪お問い合わせ先：蛭田

行程：10月3日(金) 神戸空港8:00AM集合 神戸空港発 9:10AM発(SKY141便)

長崎空港着 10:20AM着

★24 聖人殉教地(西坂の丘)巡礼他

★Fr 松村信也(講話&祈りの集い) (長崎立山黙想の家泊)

10月4日(土) ★軍艦島 ★出津教会 ★山津教会 ★ド・ロ神父祈念館

★黒崎教会(遠藤周作記念館等) (長崎立山黙想の家泊)

10月5日(日) ★大浦教会(教会変更の場合もあります)ごミサ後

★伊王島巡礼(大明寺教会堂・馬込教会・伊王島灯台など散策)

長崎空港発 17:15PM(SKY148便)

神戸空港着 18:15PM ☆到着後自由解散。



『聖母の被昇天ミサ』
8月15日(金) 7時・10時
皆様のご参加を、よろしくお願いたします。



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 教会学校

8月8日(金)～11日(月)

神戸地区合同兎和野キャンプ

📖 中高生会

8月13日(水)～15日(金)

キャンプ 於：仁豊野淳心の家

📖 典礼部

8月24日(日) 11:15 朗読奉仕者勉強会

📖 広報部

8月30日(土) 9月教会報印刷

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

8月は手芸の集い「炊き出し」「ともしび ケーキづくり」「ふれあい広場」はお休みです。
尚「ふれあい広場」(手作りコーナー/東北支援物産展)は、9月もお休みです。

★2014年度神戸地区平和旬間行事

日時：2014年8月9日(土) 13時30分～

場所：カトリック神戸中央教会 聖堂・広場

内容：今こそ伝えたい戦争体験秘話 敵国人として拷問を受けた仏人神父の話

「平和祈願ミサ」 司式：池長潤大阪大司教

納涼会 軽食・飲み物立食パーティー

※戦争と平和を考える機会として、皆様、是非ご参加ください。

★2014年12月6日 クリスマスチャリティコンサート出演者募集！ 締切日：8月17日(日)

※ いずれも詳細はポスターをご覧ください。

※

図書室からのお知らせ

<2014年7月に入った図書から>

★教皇フランシスコ講話集 1 —— フランシスコ著 ペトロ文庫 (カトリック中央協議会)

現代に生きる人びとへの愛と希望に満ちたパパ様からのメッセージを記録した講話集。その第1弾。カトリック新聞や片柳神父さんたちによって紹介されてきたものがこの1冊に詰まっています。ぜひご自分の手にとって確かめてみてください。きっとお手元に置いておきたくなると思います。

★教皇フランシスコ『小さき人びと』に寄り添い、共に生きる —— 山田経三著 明石書店

史上初のラテンアメリカ出身の教皇フランシスコは親しみやすい人柄と謙遜に満ちた態度で、カトリック信者は勿論、世界中の人々の心を掴んでいる。貧しい人々のために真に開かれた教会の再生と、対話による世界平和追求へと歩みを続ける教皇を、その言葉とふるまい、また各界からの反響をもとに綴る。

★アジジの聖フランシスコの面影—教皇フランシスコに捧ぐ

—— 池利文 写真 門脇佳吉 編集・解説 教文館



アッシジの道院での生活を体験しながら取材した作品。「深い謙遜さと母のような優しさ」の聖人といわれる聖フランシスコの面影をしっかりと伝えてくれる。イエズス会の創立者イグナチオ・ロヨラの回心のきっかけとなったフランシスコを育んだアッシジとその近郊、そして遺品の写真は教皇フランシスコ（その名のパパ様は初）に、勿論、私達にも大きな力と支えを与えてくれるだろう。（飯塚）

<推薦図書>

☆寅さんとイエス —— 米田彰男 著 筑摩選書 (2013年4月 図書室入庫)

著者はカトリック司祭で大学教授（清泉女子大・文化史学科）。イエスと車寅次郎——最も気にかかる二人の共点はユーモアいっぱいの一歩テンであるという。聖書を材料に、大飯喰らいで、常識はずれ（罪人＝病者や税吏＝と共にいるなどまさにトリックスター）なイエスを、そのユーモア（福音書には笑っているイエスの姿はどこにもないが）に満ちて、ふるさとを離れて旅をする捨て身な生き方を再現する。そして『よきサマリア人』のように、いかに人びとへの温かな思いやりに基づくものであるかを、巧みに語る。一方『男はつらいよ』シリーズ48本の特徴ある場面・台詞の再現・引用によって、寅さんのあの人間的な魅力＝「困っている人を見かけると黙ってやり過ごすことができない」生き方（まさに善きサマリア人！）… が次々に描き出される。さらに「切なく朗らかな色気」「身にまとった風天の運命」「深く共感される渡世のつらさ」「硬化した秩序を揺るがすユーモアと笑い」をキーワードにこの二人の共通点を指摘していく。そして渥美清がカトリックの洗礼を受けたことも。

この本の特徴は、著者が聖書神学者であることもあって、聖書の読み方・イエスとの出会い方をわかりやすく親しみの裡に教えてくれることにあると思う。復活したイエスが私たちの身近にいて、希望の息吹を注ぎ、寂しい心を「歌え、快活であれ」と励まし、あるいは行き詰まっているときに、勇気と力を湧き立たせてもくれることを気づかせてくれる良書である

☆教皇フランシスコ使徒的勧告「福音の喜び」学習会（片柳弘史神父） You Tube



教会報7月号にあった教会図書室の購入図書「使徒的勧告『福音の喜び』教皇フランシスコ著」を、片柳神父様が説明する映像がパソコンやスマホで見ることができます。パソコンで「使徒的勧告 福音の喜び You Tube」と入力して検索すると、表記の動画(YouTube)のサイトが見つかります。7月6日にカトリック宇部教会で行われた学習会の記録で、100分ほどで、「福音の喜び」の要約が片柳神父の口から語られます。学習会で使われた資料が欲しい方は片柳神父のブログ『道の途中で』14/7/9から手に入れます。「福音の喜び」を味わってみませんか。

また、同じ検索「福音の喜び You Tube」によって、「世界に告げ知らせよう教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』シンポジウム」——〔挨拶：幸田司教 司会：松浦司教、パネラー：Jマシア神父(イエズス会)、Mシーゲル(神言会)、光延神父(イエズス会)。イグナチオ教会 14/6/7〕——も見つかります。こちらは90分(前半)+50分(後半)ほどです。翻訳に関係したまた関連分野の学者神父による説明は、もともと解りやすい教皇の言葉をさらに深めてくれます。危機的な現実と直面する中でも希望を持ちながら、聖霊(神の力)と共に福音を宣教し、またマリアの優しさの中で励まされながら、福音の喜びを伝えていく使命を果たしていくことができる力が得られます。

別の You Tube に、山田経三神父の松戸教会での講演（愛徳カルメル会主催）もあります。

※ このコーナーでは、**教会員の方々と分かち合いたい図書・映像などの紹介や、皆様の感想文を募ります。図書室に在る本やDVDでも、無いものでも構いません。原稿をお待ちしております。**

【土曜日の事務受付時間変更のお知らせ】

教会の事務室は、これまで朝9時に開けて、午後5時に閉めておりましたが、皆様の声もあり、土曜日は午後7時まで開けることになりました。他の曜日についてはこれまでと同じです。

尚、週日にある国民の祝日は原則として事務室はお休みになりますのでよろしくお願い致します。

【教会への質問にお答えして】

Q：週報などで「炊き出し」とか、「料理教室」の案内がありますが、その詳細や手続きなど具体的なことをどなたにお聞きしてよいのか、一緒に書いて頂けないでしょうか。

A：このような場合は、教会事務室にお尋ねください。

~~~~~



## みんなの広場

### 家族の輪を外へ、外へ

不思議に思ったことがあります。

なぜイエス様はマリア様のところへお生まれになったのでしょうか？ ヘロデやピラトのところへお生まれになってもイエス様は「神を示す」(ヨハネ 1:1) ことがおできになったでしょう。経済的な貧しさよりもっと悲しまれたでしょうけれど。

なぜイエス様は汗を血のように流されるほどのゲッセマネのお祈りのときにマリア様を伴われなかったのでしょうか？ 母なるマリア様ならお眠りにならなかったのに。いつしかマリア様はお眠りにならないから、目を覚ましていらっしゃる方だから伴われる必要がなかったのだと思うようになりました。(一睡もせず、みえない場所でお祈りなさっていたのかもしれない。)

なぜマリア様はイエス様の命乞いをなさらなかったのでしょうか？ 神様がすっぽりとマリア様を包まれていたのでしょうか。でも十字架に釘打たれるイエス様を前に当時マリア様にそれがお見えになったのでしょうか？ そして思うのです。十字架に従い、十字架の下に佇むことのできるお力をマリア様はイエス様が公的な活動を始められる前の30年に養われたのではないかしら？と。その間、もっと遠くで癒しを待っている人々がいるのをイエス様はご存じだったでしょう。でもナザレに戻られたイエス様は、両親に、身近な人に仕えることを(私たちに)示され、何よりも一番身近なマリア様に神を示されたのだと思います。「父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか？」(ルカ 2:49)をただ大切にお心に留められたマリア様は、いかなるがあっても神の愛に留まることをイエス様が旅立たれるまでの間に、それこそ神の愛の真ただ中にいらっしゃることによって獲得なさったのではないのでしょうか？

「願いなさい。そうすればかなえられる。」(ヨハネ 15:7)

自分の命と引き換えにしてでも助かってほしい、と願われたマリア様の最も大きな願いは叶えられました。ご復活によって。

イエス様とマリア様の全生涯において示されるのは、神様と人間の最も美しい愛の形のように私には思われます。母として「剣で心を刺し貫かれた」としてもマリア様は生涯を通して恵まれた方だったのでしょう。神の愛を受け取り、どんなことがあってもその愛の内に生きることができる、と示されるために、全能の神はマリア様のところへイエス様をお送りになったのでは？と思ったりいたします。

私たちは、自らだけではなく家族や隣人の困難に、対立に、病に、死に苦しみます。けれどもそれもまた愛なのかもしれないと思うようになりました。家族を、隣人を、生命を愛さなければ苦しみのないのですから。

主はいかなるときも私たちと共にいてくださる。困難にあったとき、主に自らの弱さへの憐みを請い、マリア様に倣いたいと願ひ、それでも真っ暗で何もみえないとき、祈ることさえできないとき、ミサで家族の祈りと歌声に支えられる私たちはなんと幸せなことでしょう！ 私たち六甲教会という大きな家族の家にひとりでも多くの方を「どうぞいらしてくださいませ」とお招きしたいと願ひます。

(マリア)



## 8月15日

12月8日「童貞聖マリア無原罪の御孕り」の大祝日に始まり、8月15日「童貞聖マリア被昇天」の大祝日に終わった暗黒の日々、8月15日と言えば残り少なくなった僕の世代が先ず想い出すのはこのことでしょう。あの日、ライフ神父様が「もう空襲はないんですね」と繰り返し言われたことを覚えています。国民服姿でブルビアーレを包んだ風呂敷を手に、生徒の家を訪ね歩いておられた神父様が。

1854年12月8日、ピオ9世によって誤りない教義として宣言された無原罪の御孕り、その当然の帰結である被昇天が教義として宣明されたのは、100年近く経った1950年11月1日、ピオ12世によってでした。その際ミサの固有文も新たになりました。聖母の被昇天は8世紀頃から8月15日に祝われていたそうですから、あまりにも当然で100年近く経ったのかも知れません。ピオ9世もピオ12世も波乱の時代のパパ様でした。

「無原罪の御孕り」から「被昇天」まですべてを心に納めて「F i a t」と受けられたマリア様に、私も出来るようお願いしていただきましょう。(終) (ヨハネ三好)

|                                                                                                                                                                     |                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教会報9月号の発行は、8月31日(日)です。<br>編集会議8月24日(日)です。<br>記事原稿は、8月17日(日)正午までに信徒会館<br>受付へご提出願ひます。(広報部)<br><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a> | カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会<br>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21<br>電 話 078-851-2846<br>F A X 078-851-9023<br>発行責任者 アルフレド・セゴビア<br>編 集 広 報 部 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|